



# **GGGI教育分野**

**教育分野は平等だと考えられていますが課題はたくさん**

2020年2月29日（土）

独立行政法人 国立女性教育会館

中野 洋恵

## 2019年のGGGI

教育の達成 0.983(91位)(65位)

識字率の男女比率	1.000( 1位)( 1位)
初等教育就学率の男女比率	1.000( 1位)( 1位)
中等教育就学率の男女比率	0.954(128位)( 1位)
高等教育(大学・大学院等)の男女比率	0.952(108位)(103位)

STEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)データは  
日本では報告されていない。

教育分野のランクの高い国はSTEMデータを公表している国が多い

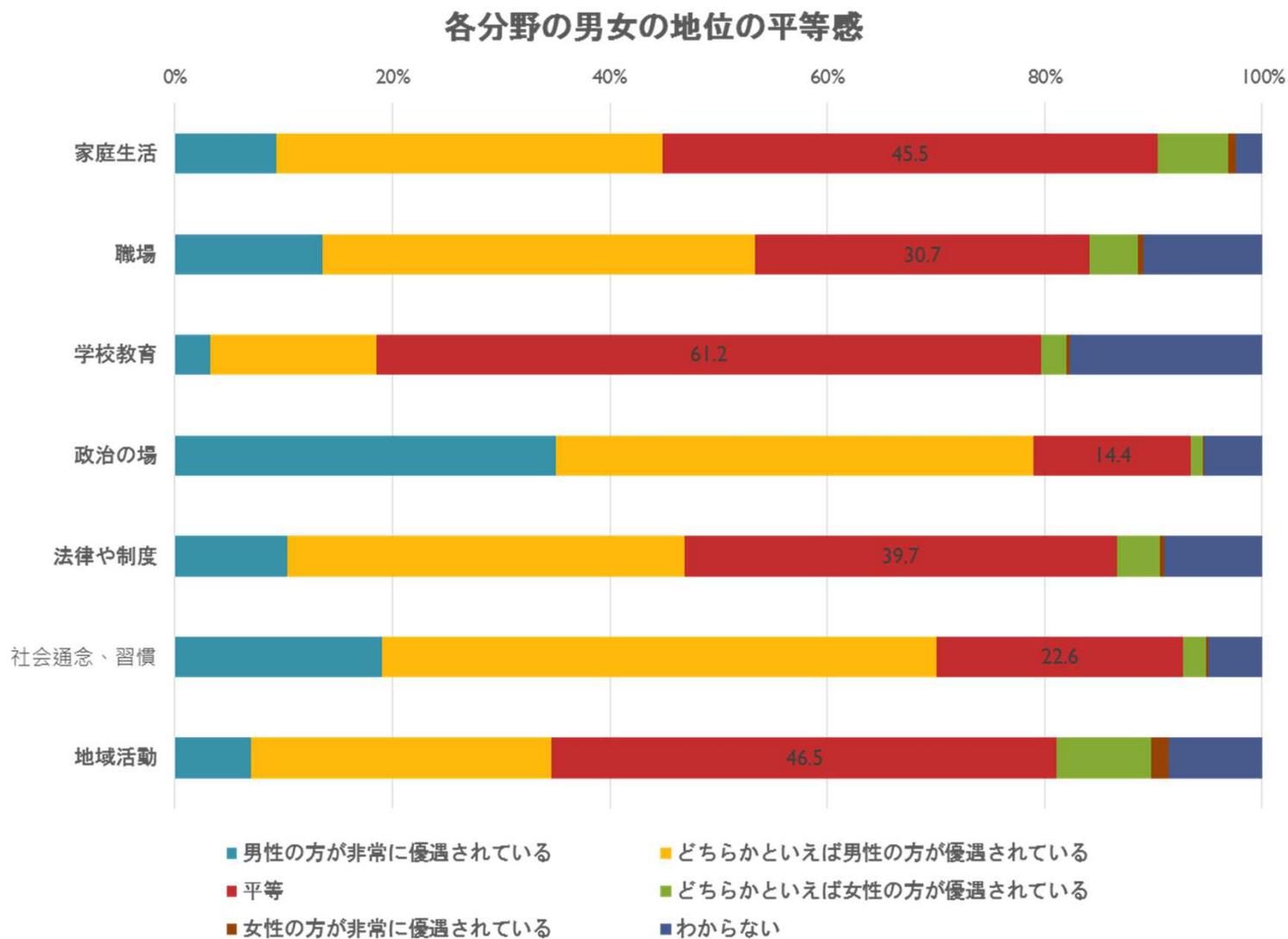
## 2019レポートで中等教育就学率の男女比率のランクが下がったのは？

この指標の出典はUNESCO教育統計データポータル日本の最新値が掲載されていない。

Enrolment in secondary education, %

Percentage of girls and boys in the official primary school age range (net rate) who are enrolled in secondary education (ISCED 2 and 3). It excludes ISCED 4, which is post-secondary, non-tertiary education. Whenever data on this indicator is not available, the “Percentage of students in secondary education (ISCED 2 and 3) who are female” variable is used instead.

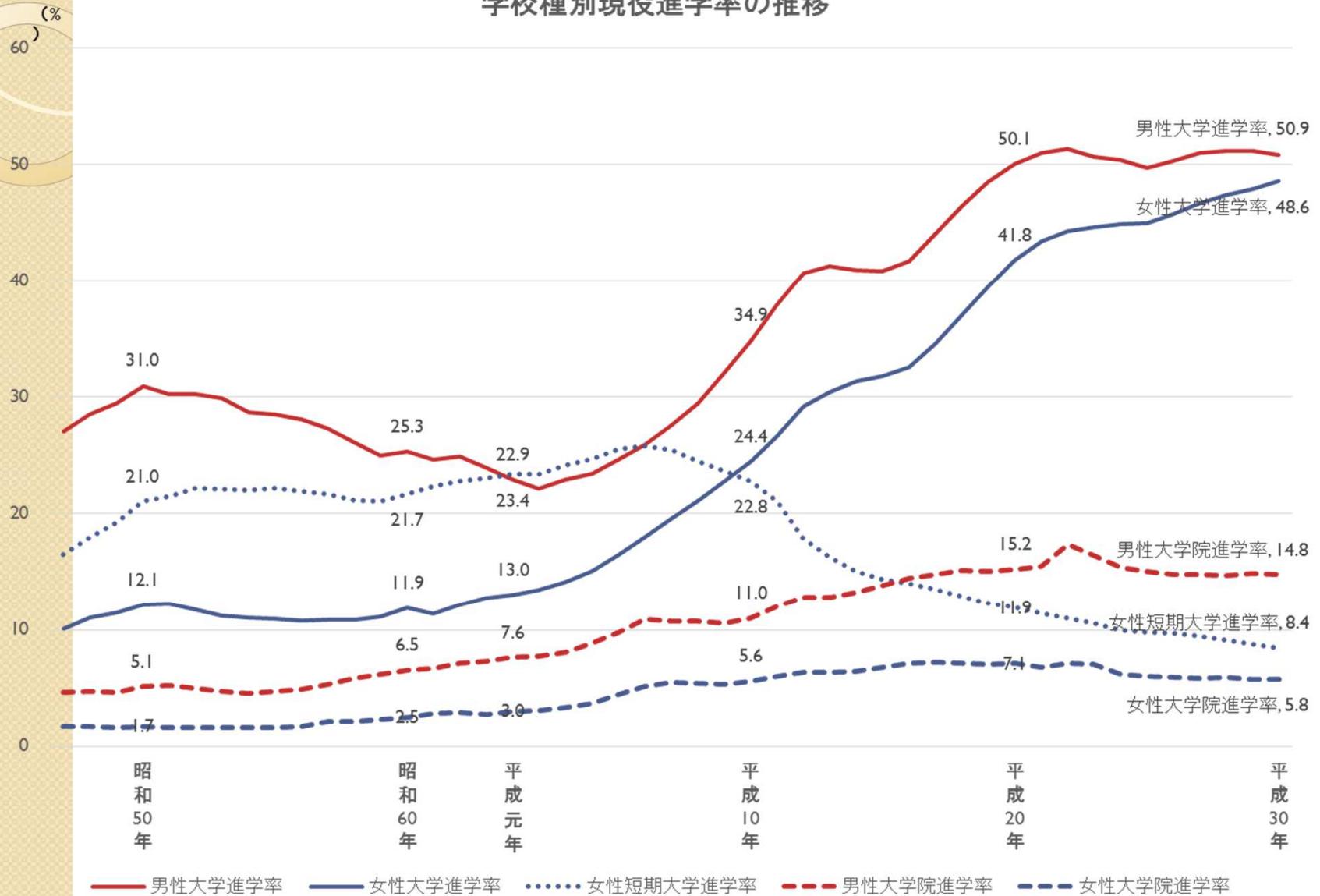
各分野の中で学校教育は男女平等と考えられています、前回調査からは減少



出所：内閣府『男女共同参画社会に関する世論調査』令和元年

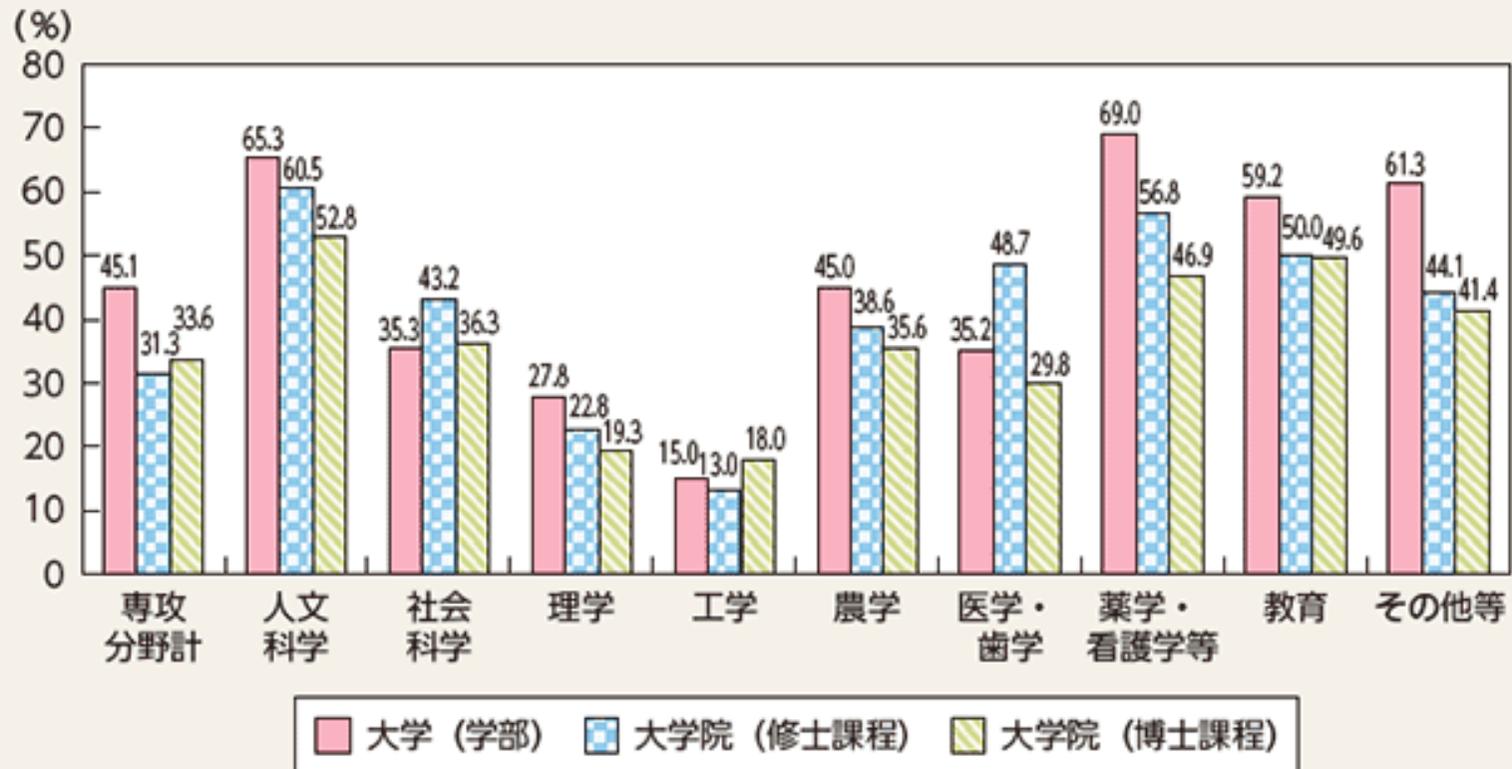
# 学校種類別進学率の推移

## 学校種別現役進学率の推移



## 理工系の女性割合は低い

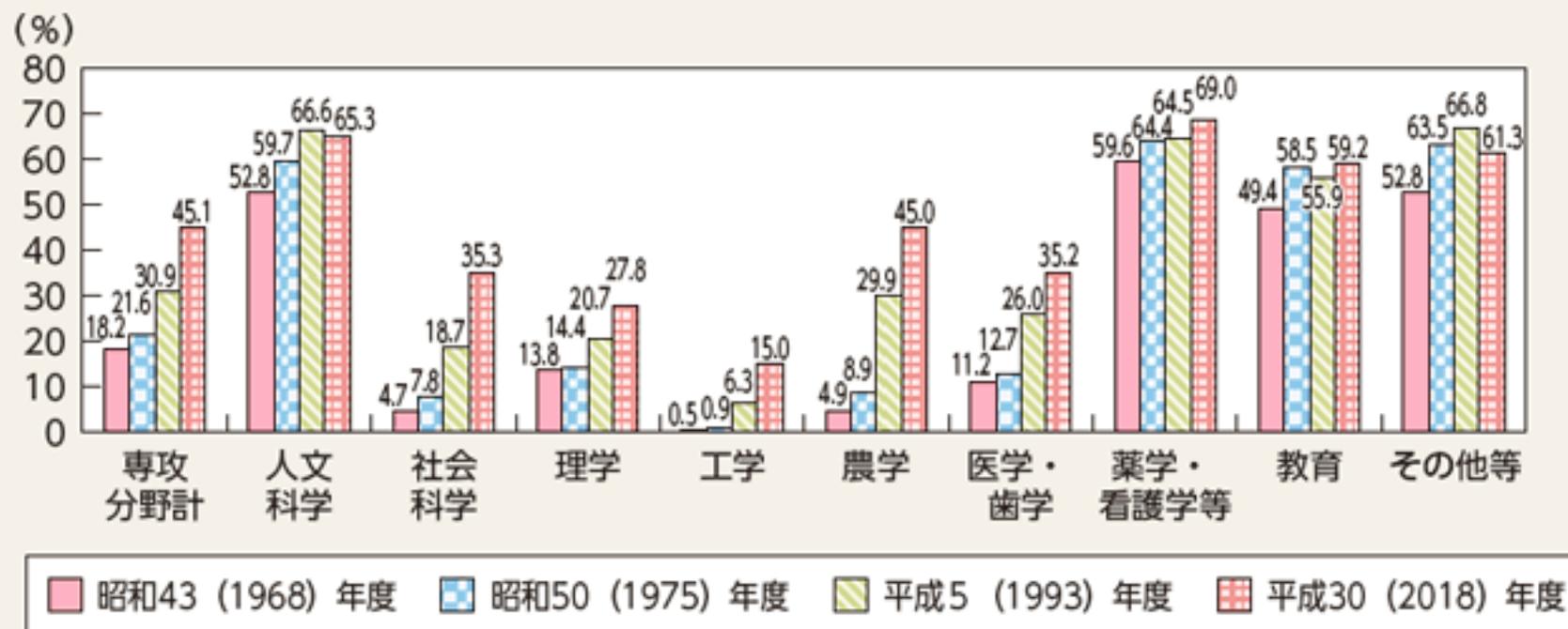
I-特-22図 大学(学部)及び大学院(修士課程、博士課程)学生に占める女子学生の割合(専攻分野別、平成30(2018)年度)



- (備考) 1. 文部科学省「学校基本統計」(平成30年度)より作成。  
 2. その他等は、大学(学部)及び大学院(修士課程)は、「商船」、「家政」、「芸術」及び「その他」の合計。大学院(博士課程)は、商船の学生がいないため、「家政」、「芸術」及び「その他」の合計。  
 3. 大学(学部)の「薬学・看護学等」の数値は、「薬学」、「看護学」、「その他」の合計。大学院(修士課程、博士課程)の「薬学・看護学等」の数値は、「薬学」、「その他」の合計。

## 理工系の女性割合は増加傾向にはある

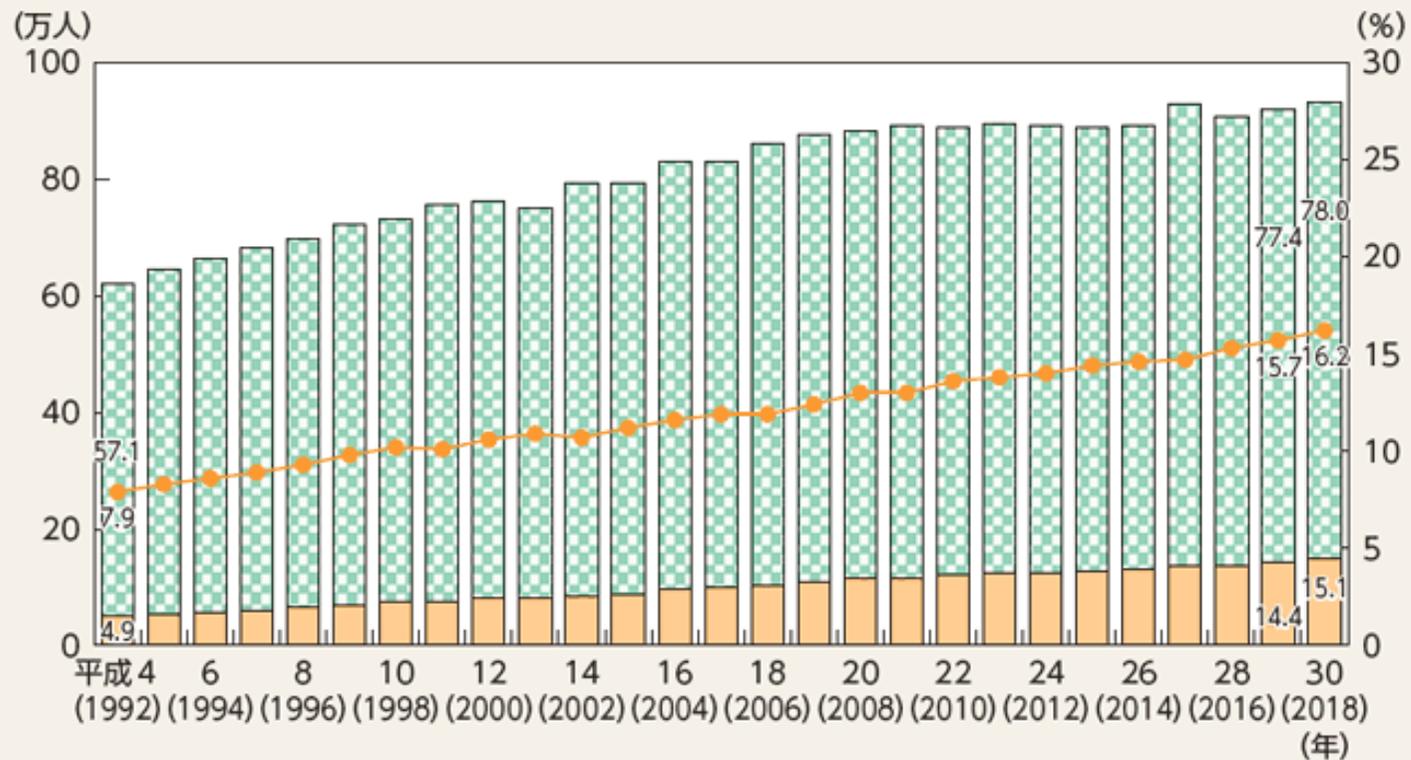
I-特-2図 大学（学部）学生に占める女子学生の割合



- (備考) 1. 文部省「学校基本調査」(昭和43年度・昭和50年度・平成5年度), 文部科学省「学校基本統計」(平成30年度)より作成。  
 2. 「薬学・看護学等」は, 「学校基本統計」の「保健」の項目の内, 昭和43年度及び平成30年度は「薬学」, 「看護学」及び「その他」の合計, 昭和50年度及び平成5年度は「薬学」, 「看護学」, 「医学専門学群」及び「その他」の合計で算出。  
 3. 「その他等」は, 「商船」, 「家政」, 「芸術」及び「その他」の合計。

## 研究者の大半を占める工学・理学分野に特に女性研究者が少ない

I－特－24図 女性研究者数及び研究者に占める女性の割合の推移



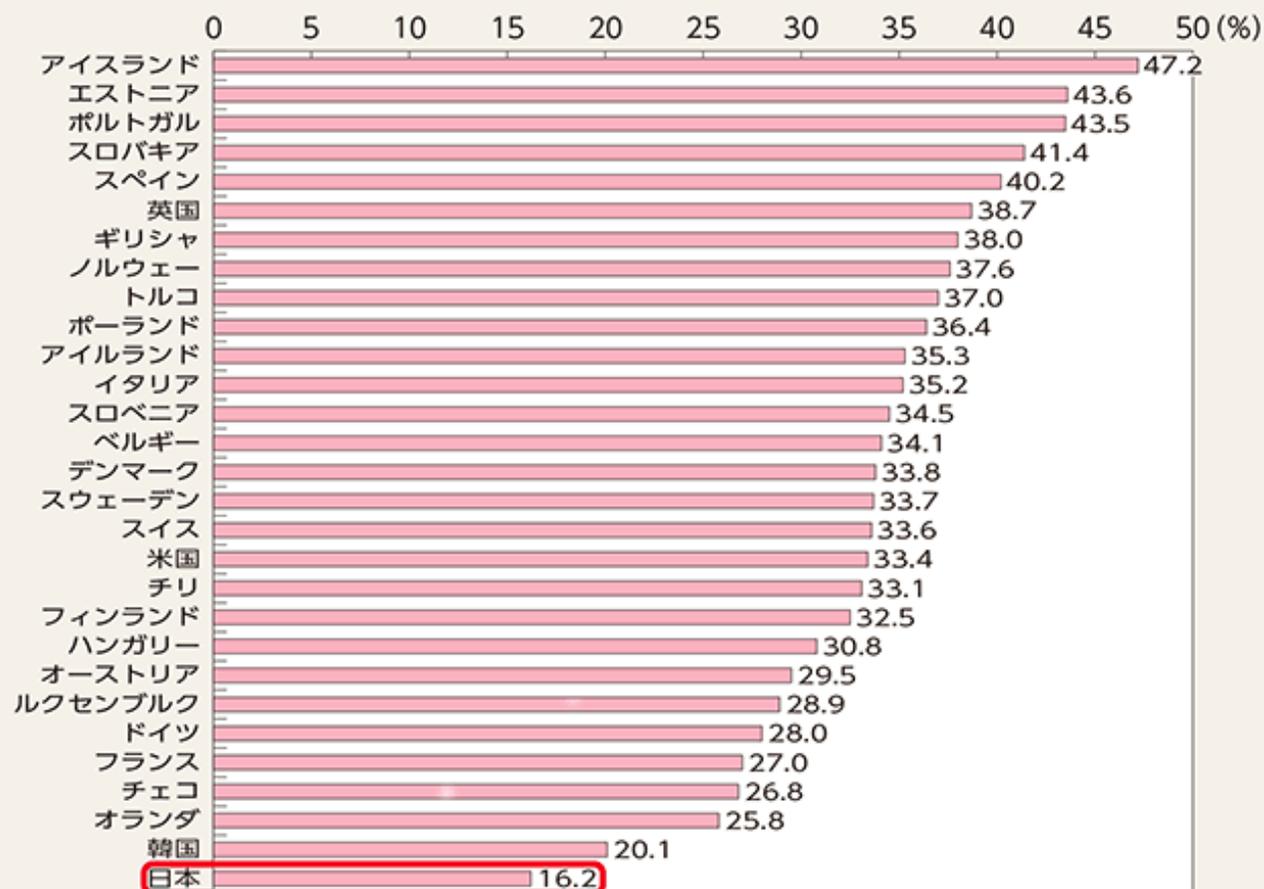
女性研究者数
  男性研究者数
  研究者に占める女性の割合 (右目盛)

- (備考) 1. 総務省「科学技術研究調査」より作成。  
 2. 平成13年までは各年4月1日, 平成14年以降は各年3月31日現在。  
 3. 平成7年, 9年及び14年に調査対象や標本設計等が変更されている。  
 4. 平成13年までの研究者数は, 企業及び非営利団体・公的機関については実際に研究関係業務に従事した割合で按分して算出した人数とし, 大学等は実数を計上。平成14年以降は全機関について実数で計上されていることから, 時系列比較には留意を要する。  
 5. 研究者数は, 自然科学系の研究者だけでなく, 人文・社会科学系等の研究者も含まれている。

出所:『男女共同参画白書令和元年版』

## 諸外国と比べると依然として低い水準にとどまっている

I-特-25図 研究者に占める女性の割合の国際比較

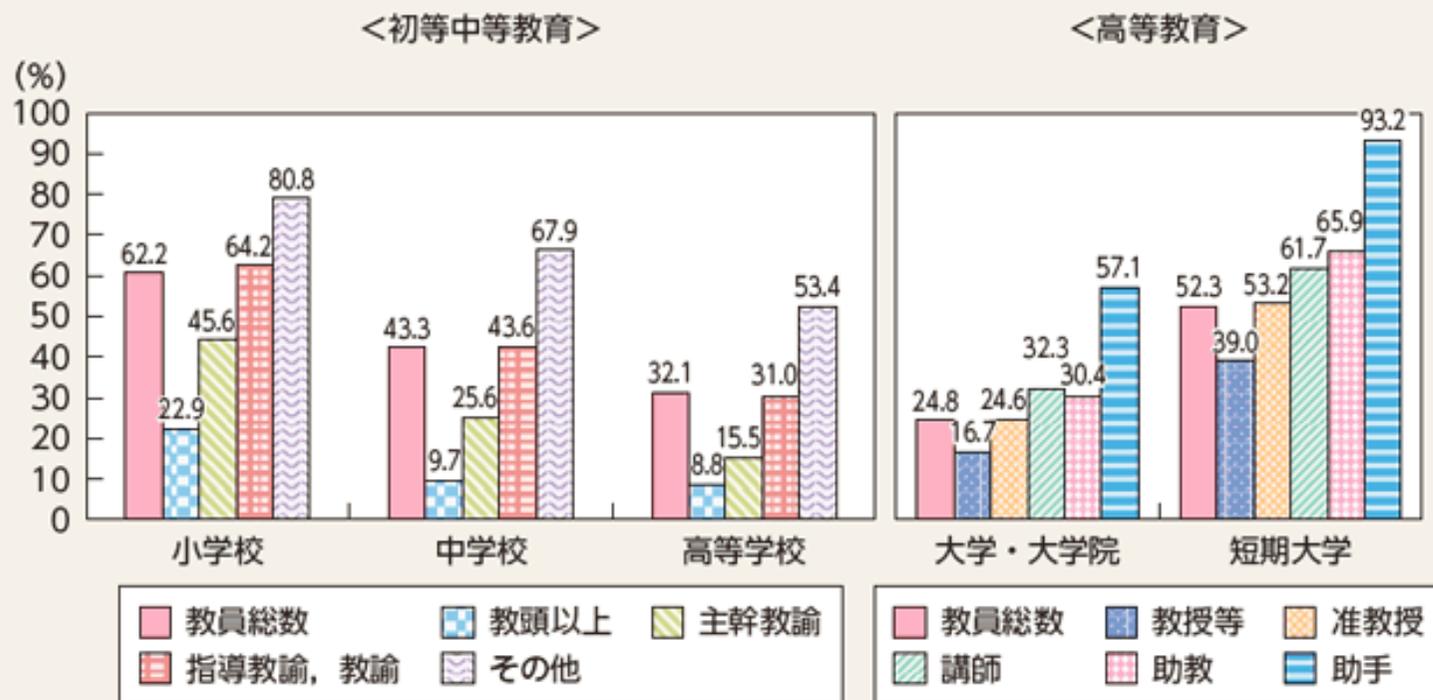


- (備考) 1. 総務省「科学技術研究調査」(平成30年), OECD “Main Science and Technology Indicators”, 米国国立科学財団 (National Science Foundation : NSF) “Science and Engineering Indicators 2018” より作成。
2. 日本の数値は, 平成30 (2018) 年 3月31日現在の値。トルコ, チェコ及び韓国は平成29 (2017) 年値, アイスランド, エストニア, ポルトガル, スロバキア, スペイン, 英国, ノルウェー, ポーランド, イタリア, スロベニア, チリ, フィンランド, ハンガリー及びオランダは平成28 (2016) 年値, その他の国は, 平成27 (2015) 年値。推定値及び暫定値を含む。
3. 米国の数値は, 雇用されている科学者 (Scientists) における女性の割合 (人文科学の一部及び社会科学を含む)。技術者 (Engineers) を含んだ場合, 全体に占める女性科学者・技術者の割合は28.4%。

出所:『男女共同参画白書令和元年版』

## 職階が上がるほど女性の割合は減少

I－特－13図 本務教員総数に占める女性の割合（教育段階別、平成30（2018）年度）



- (備考) 1. 文部科学省「学校基本統計」(平成30年度)より作成。  
 2. 高等学校は、全日制及び定時制の値(通信制は除く)。  
 3. 初等中等教育の「教頭以上」は「校長」、「副校長」及び「教頭」の合計。「その他」は「助教諭」、「養護教諭」、「養護助教諭」、「栄養教諭」及び「講師」の合計。  
 4. 高等教育の「教授等」は「学長」、「副学長」及び「教授」の合計。

# 管理職に占める女性の割合の現状

教員全体に占める割合に比して、低い女性の管理職率

職位・性別教員数および女性比率(平成30年度、公立小学校・中学校・全日制高校)

(人・%)

	小学校			中学校			高校		
	男	女	女性比率	男	女	女性比率	男	女	女性比率
教員計	155,581	258,139	62.4	129,588	100,778	43.7	105,311	52,917	33.4
校長	15,346	3,739	19.6	8,449	600	6.6	3,072	250	7.5
副校長	1,214	589	32.7	800	136	14.5	548	61	10.0
教頭	13,354	4,573	25.5	7,864	1,052	11.8	3,648	398	9.8

出典：学校基本調査(平成30年度)より作成

「第4次男女共同参画基本計画」(平成27年12月閣議決定)における成果目標

初等中等教育機関の教頭以上に占める女性の割合 平成30年4月1日現在 17.5%

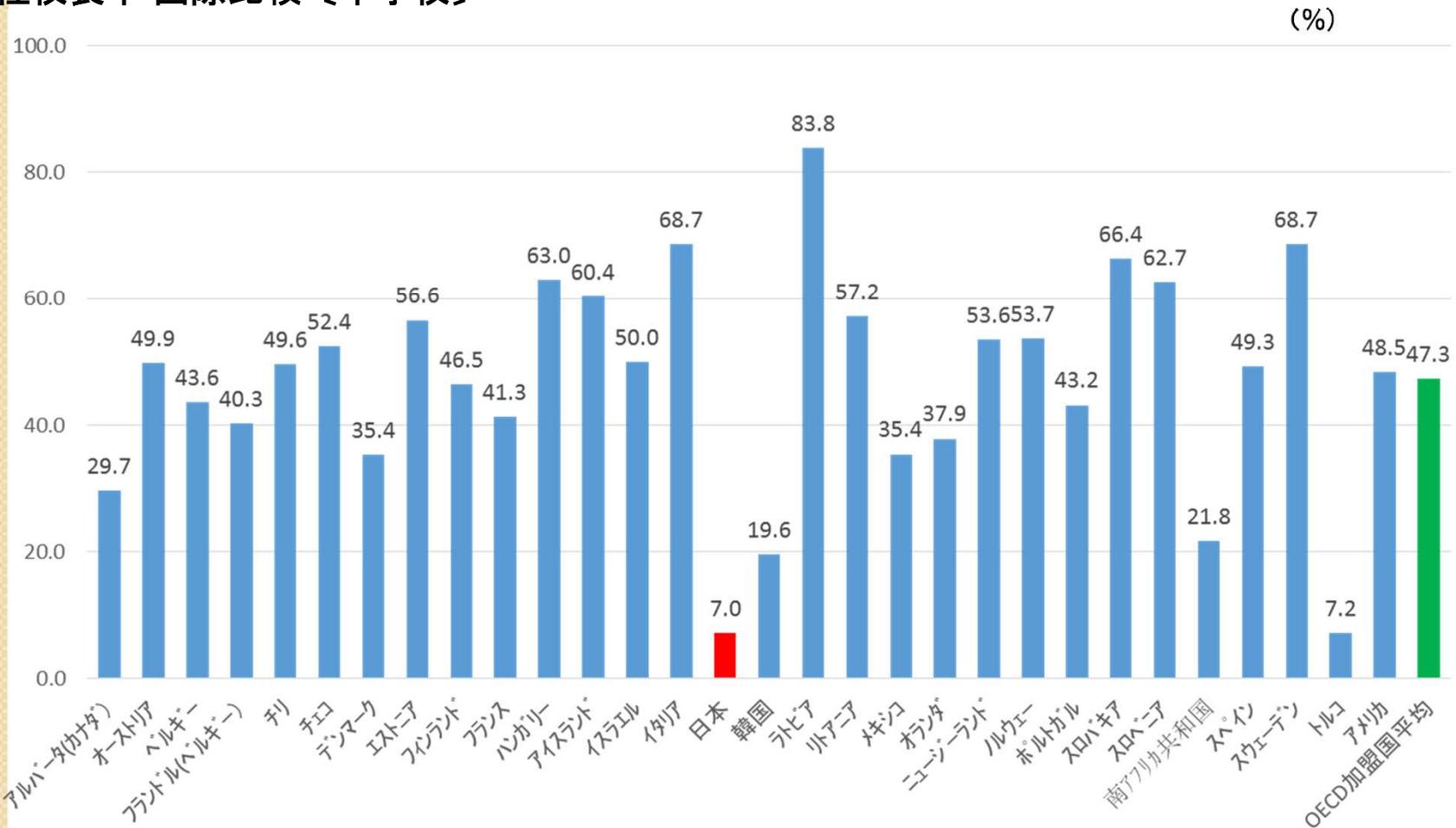
目標値：平成32年20%以上(第3次計画30%を下方修正) 計画策定時の数値：15.0%(平成25年)

成果値17.5%は、3校種をまとめ、管理職にあたる職位全体を均した値であるため、課題が見えにくい  
が、上の表からは、

- ・教員全体に占める女性の割合に比して、管理職に占める女性の割合は低い
- ・職位別には、校長に占める女性の割合が最も低く、中学校、高校は特に低いことなどが問題として見えてくる

# OECD調査参加国中、最も低い日本の女性校長率（中学校）

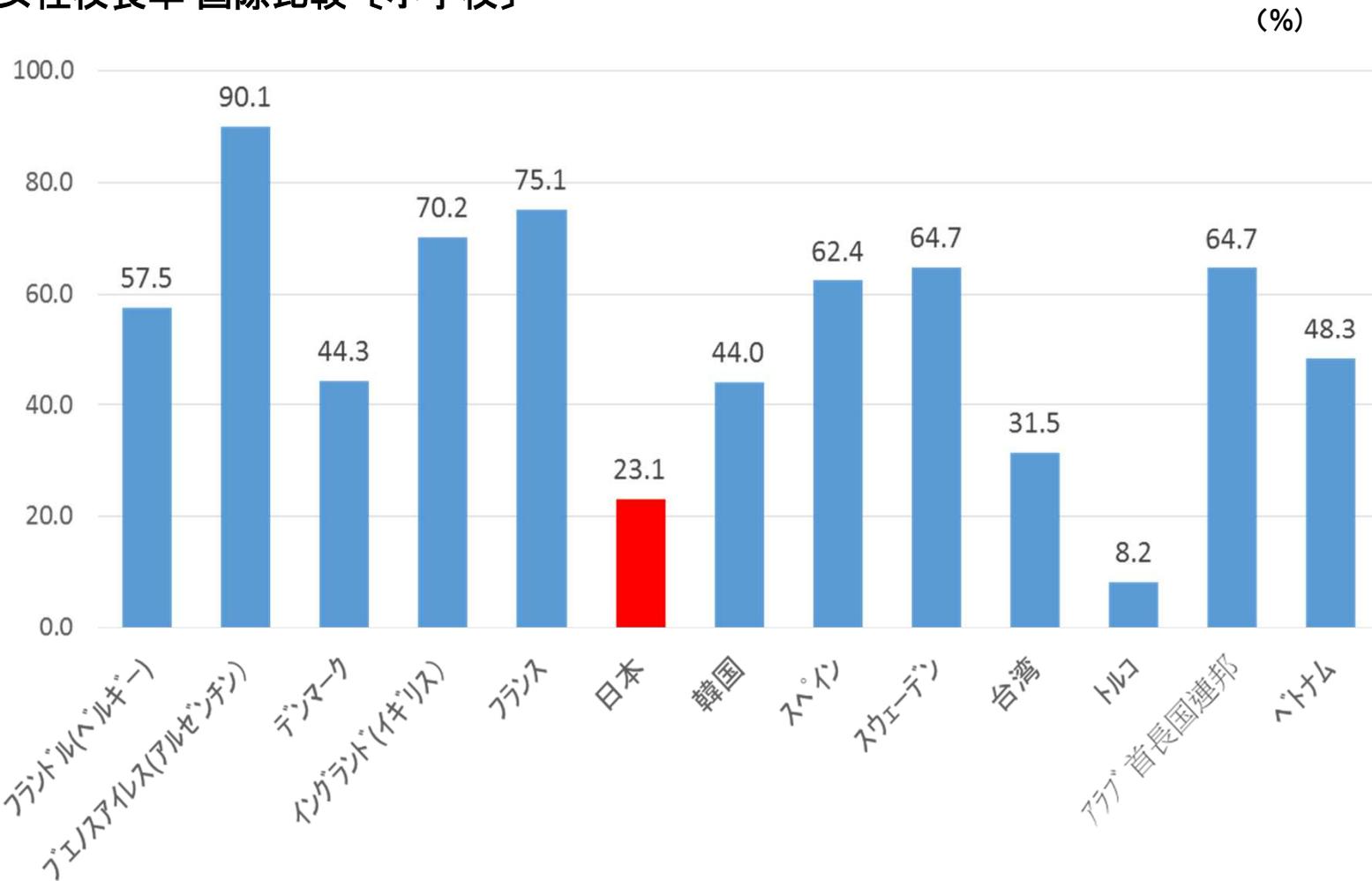
## 女性校長率 国際比較〔中学校〕



出所：“The OECD Teaching and Learning International Survey (TALIS) 2018 Results”より作成  
 注) 調査参加国48か国・地域のうち、OECD加盟国30か国・地域の値

## 低い日本の女性校長率（小学校）

女性校長率 国際比較〔小学校〕



出所： “The OECD Teaching and Learning International Survey (TALIS) 2018 Results” より作成 13

# 学校教員のキャリアと生活に関する調査

## 国立女性教育会館調査

目的: 教員の職場環境や管理職に関する意識、性別役割分担等の実態を明らかにする

調査対象: 公立小学校、中学校本務教員(ただし、養護教員、栄養教員、助教諭、講師、休職・育児休業中の教員を除く)

調査方法: ウェブ調査

実施期間: 平成30年1～2月

抽出方法: 層化集落抽出法

平成29年度学校基本調査の個票データから小学校1500校、中学校1500校を抽出。

選ばれた学校に在籍する本務教員全員を対象。

小学校28918人 中学校32486人

調査内容 仕事の満足度 在職場時間 土日の仕事状況  
家事・育児分担 管理職指向 性別役割分担意識 等

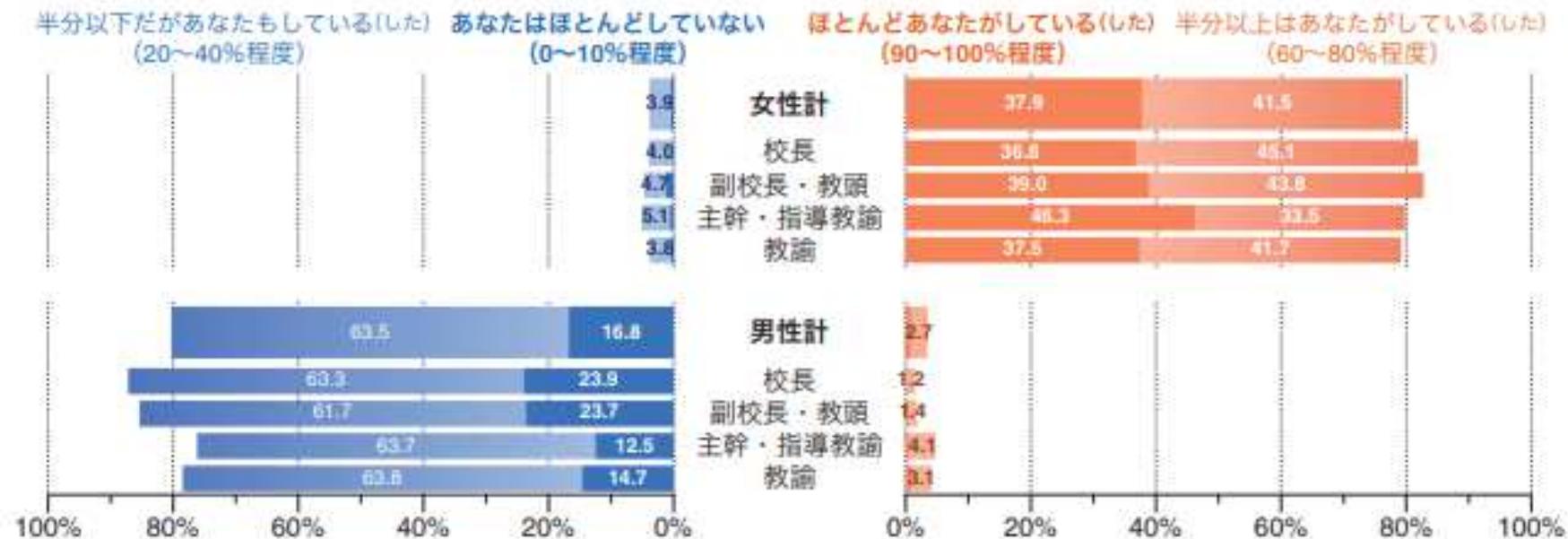
図5 平均的な1日の在職場時間は何時間ですか



校種・性・職位別



図7 子供が未就学児から小学生の時期に家事・育児等、家庭生活の役割をどの程度担っている(た)か



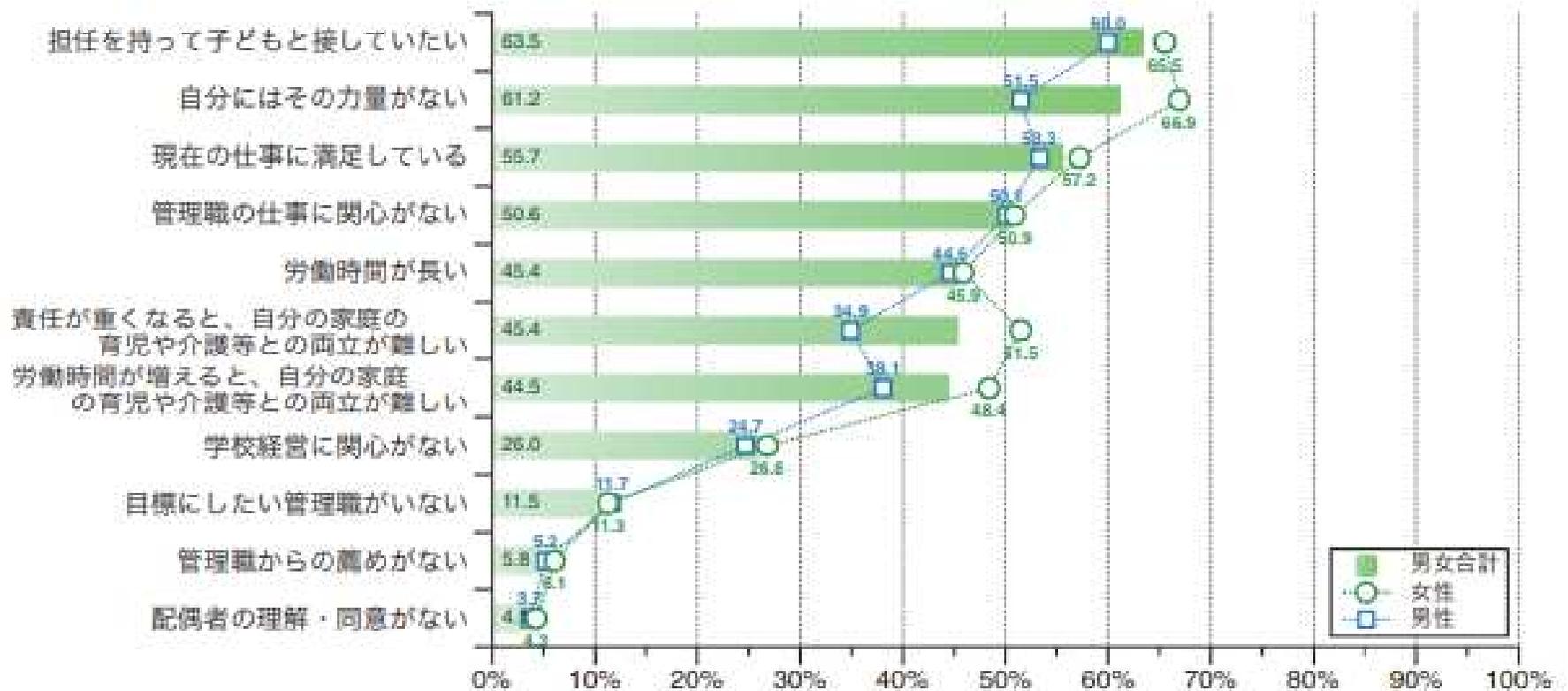
注1) 一番下の子供が12歳以下の回答者の現在についての回答と、13歳以上の子供を持つ回答者の過去についての回答を合算して算出

注2) 「ほとんどあなたがしている(した) (90~100%程度)」「半分以上はあなたがしている(した) (60~80%程度)」「ほぼ半分あなたがしている(した) (50%程度)」「半以下だがあなたがしている(した) (20~40%程度)」「あなたはまだほとんどしていない (0~10%程度)」のうち1つを選んで回答

図9 あなたは将来、管理職になりたいと思いますか

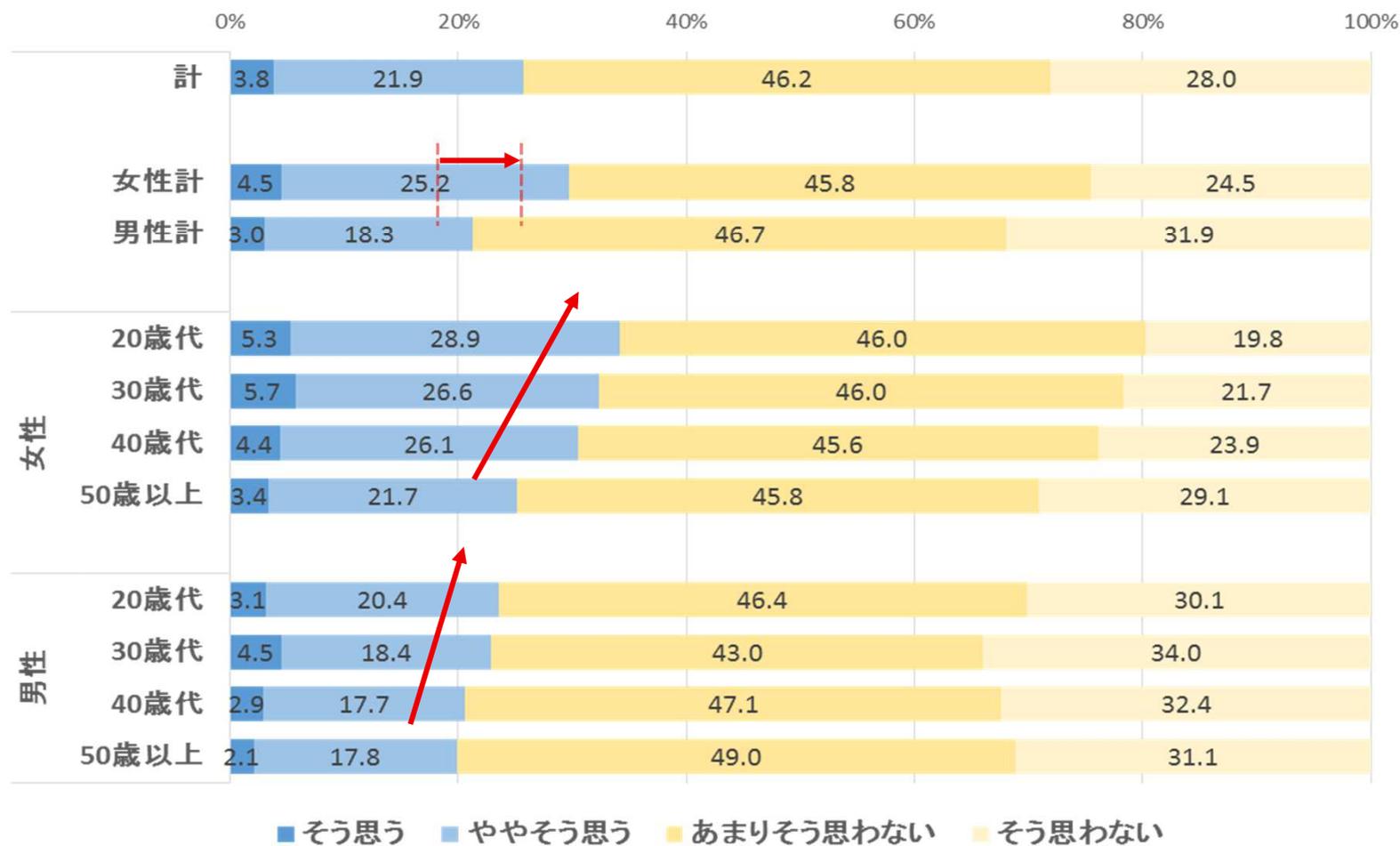


図12 「あまりなりたくない」「絶対になりたくない」理由は何ですか（複数回答）



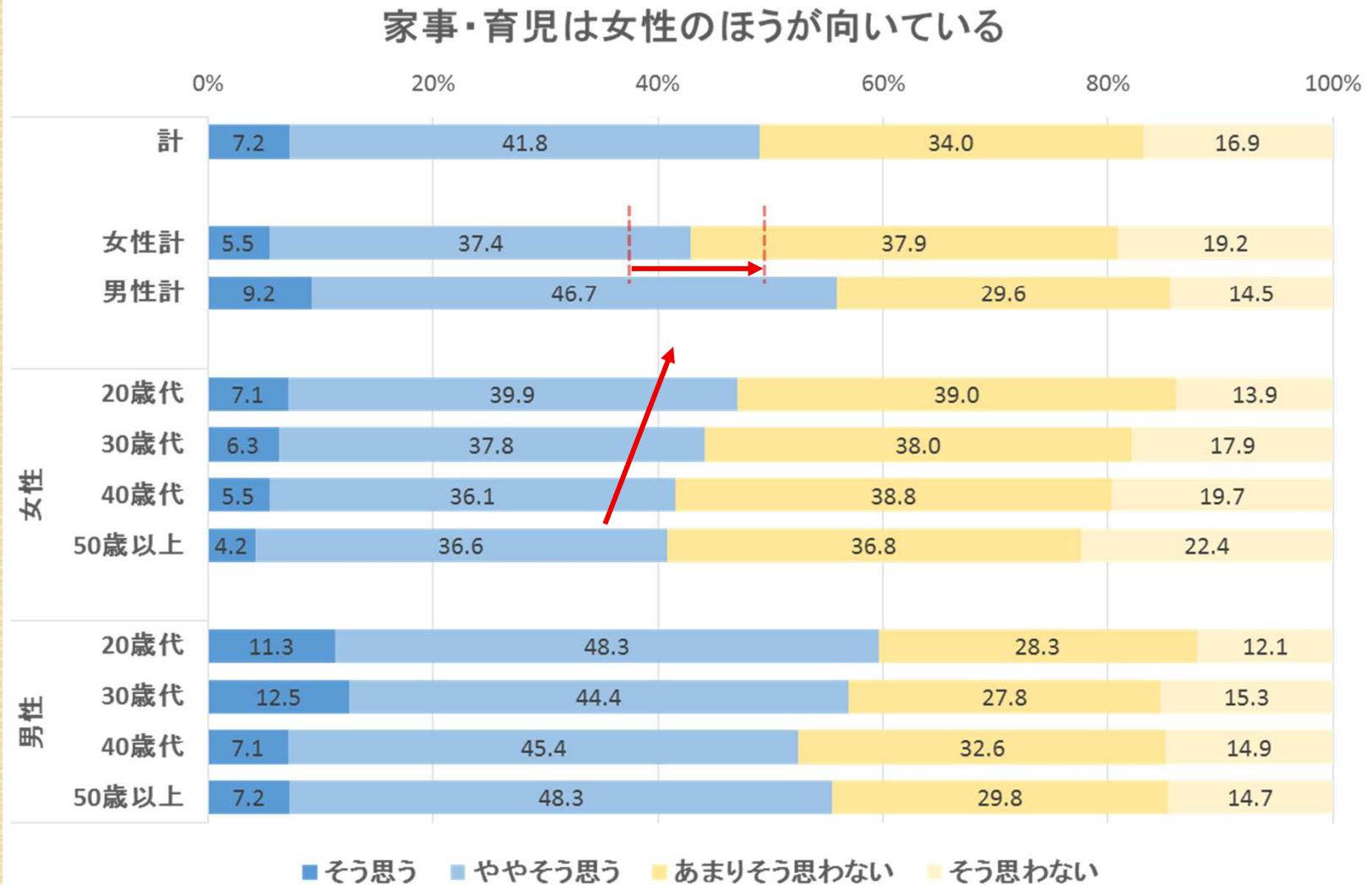
「男性のほうが女性より管理職に向いている」と「思う」教員の割合は25.7%

### 男性のほうが女性より管理職に向いている



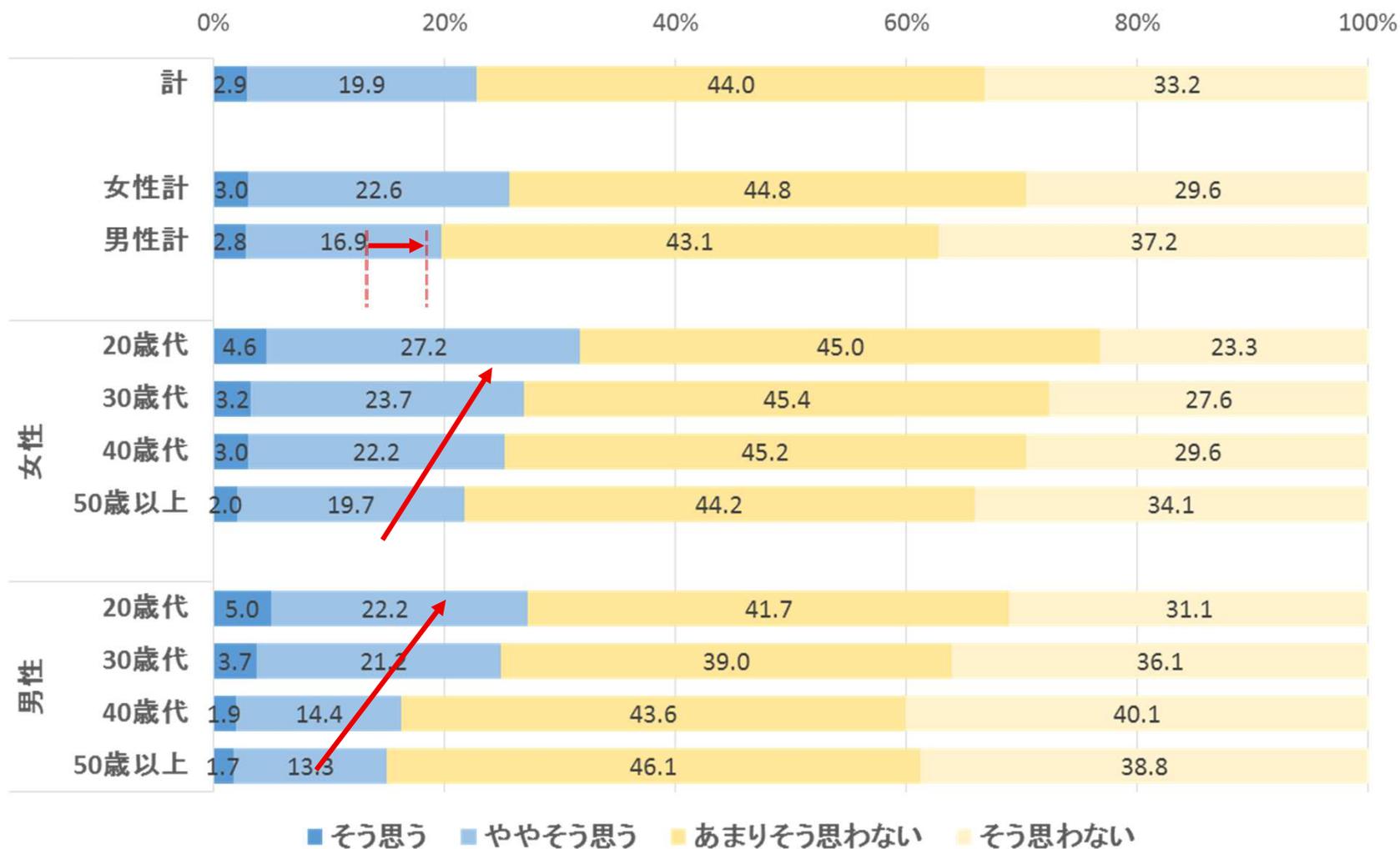
出所： 国立女性教育会館『学校教員のキャリアと生活に関する調査』

# 「家事・育児は女性のほうが向いている」と「思う」教員の割合は49.0%



「理数系の教科は、男子児童生徒のほうが能力が高い」と「思う」教員の割合は22.8%

理数系の教科は、男子児童生徒のほうが能力が高い



(1) なぜ女性の管理職を増やすことが大切か  
子供向け学習イベントでの子供たちの回答を事例として

子供向け学習イベントにおいて国立女性教育会館が実施したクイズ(子供への問いかけ)

手順①自分の通っている学校の校長先生の性別によって、壁面の模造紙の右側または左側に丸いシールを貼る

手順②小中学校別の教員全体および校長の性別割合を示した図(100人の人型で割合を表示)を見てもらいながら、日本全体の現状について簡単に説明する

手順③「このグラフが示すように、女性の校長先生が少ないのはなぜだと思うか」と問いかけ、思いついたことを付箋に書いてもらう



「女性の校長先生が少ないのはなぜか」 考えた答えを付箋に書く  
小学生を中心とした小中学生の回答(抜粋)

### 〔固定的な性別のイメージ・固定観念にかかわること〕

「おとこのほうがつよいから(小1)」

「男の先生がしっかりしているから(小4)」

「男性のほうがリーダーっぽくて、なんとなくよい(小5)」

「だんしのほうがえらいから(小1)」

その他、男性のほうが…信頼されている、たくましい、頭がいい、権力がある、  
むいている、意志が強い、説得力がある など

### 〔性別による姿勢・態度等の違い(にかかわるイメージ)〕

「ちゃんとせきにんをとれると知っている人が男の方が多いから(小5)」

「学校は校長先生がせきにんをおうのがとうぜんだから、女の方はせきにん  
をおうのがいやだから(小4)」

「校長先生みたいなえらいひとにはなれるかなあと心ばいなのかも(小4)」

(つづき)

〔結婚・出産・育児による女性の退職・休職・両立困難〕

「女性がとちゅうで結婚や育児などを理由に仕事をやめてしまうから(中1)」

「女の方は子どもを生んで休むかのうせいが高いから(小5)」

「女の方は家の事でせいいっぱいだから(小3)」

〔校長を志向しているかどうか〕

「女は校長先生をやりたい人がすくない(小3)」

「男の方はえらい人になりたくて校長先生になるんじゃないか(小4)」

〔背景にある社会的な格差や役割分担意識についての認識〕

「女性よりも男性のほうがえらいと思われているから(小6)」

「男性の方が優先されるからだと思う(小6)」